

TeSH

アントレプレナーシップ教育プログラム

企業協賛（寄附）のご案内

社内決裁サポートガイド

北陸の未来を創る人材への、企業からの教育投資

本資料は、企業が TeSH への寄附を検討・決裁する際に必要となる「公益性」「自社との接点」「資金使途」「参画内容」「手続き」「税務上の確認事項」を一冊に整理したものです。社内稟議への添付資料として、そのままご利用いただけます。

企業の支援が生み出す価値



公式サイト・お申込み

<https://tesh-entre.jp>

発行：TeSH アントレプレナーシップ教育プログラム



2026 年 7 月版

01 社内決裁用サマリー

この 2 ページを稟議書に添付することで、寄附の目的・妥当性・手続きの要点を説明できます。

決裁の要点

TeSH への寄附は、北陸の小中高生・高専生・大学生・大学院生等実践的な Entrepreneurship 教育と挑戦環境を提供し、将来の地域産業・社会を担う人材を育てるための教育支援です。企業にとっては、地域貢献に加え、人材育成、学生・教育機関との接点、ブランド発信、イノベーション文化の醸成につながる参画機会となります。

決裁項目の整理

支出目的	北陸地域の次世代人材育成と Entrepreneurship 教育基盤の充実を支援する。
支出区分	企業協賛（寄附）。寄附先となる大学・高専が各機関の規程に基づき受け入れる。
寄附先	TeSH 参画大学・高専から指定。全体調整は TeSH 窓口が支援する。
金額・期間	年額 10 万円から 300 万円以上までの区分から選択。期間は、寄附金の入金日から 1 年間。
主な使途	教材・教育プログラム開発、出前授業、学生コミュニティ・成果発表、試作設備・学生支援等。
企業側の価値	CSR・地域貢献、人材育成・リスクリング、学生・教員との接点、採用広報、ブランド発信。
成果確認	年次報告書、成果発表イベント、公式 Web 等を通じて活動・成果を確認する。
税務・会計	寄附先機関の領収証明書・案内に基づき処理する。金沢大学が寄附金として正式に受け入れ、国立大学法人法に定める業務に充てる法人寄附は、指定寄附金として原則、支出額の全額を損金算入できる。

社内説明に使える一文

稟議書への記載例

当社の地域貢献・人材戦略の一環として、北陸 11 大学・3 高専等が連携する TeSH アン Entrepreneurship 教育プログラムへ寄附を行いたい。本寄附は、次世代人材の課題発見・挑戦・事業創造力を育む教育基盤を支援するものであり、当社にとっても社員の学び、学生・大学との接点、地域における企業価値向上に資する。

決裁前に確定する 5 項目

01

寄附先機関

どの大学・高専が寄附を受け入れるか。

02

協賛区分

エデュケーション／ブロンズ／シルバー／ゴールド／プラチナ。

03 希望する参画内容

教育プログラム利用、成果発表会、ワークショップ、社員研修等。

04 社内の主管部門

経営企画、サステナビリティ、人事、広報、地域連携等。

05 成果指標

社員参加数、教育活動数、学生接点、社内外発信など。

02 TeSH とは

北陸地域の教育・起業環境を、大学・高専・自治体・産業界が共創するプラットフォームです。

Tech Startup HOKURIKU（TeSH／テッシュ） は、北陸地域の 11 大学・3 高専および自治体、産業界が共創し、世界に通用するスタートアップ・エコシステムの形成を目指すプラットフォームです。

広域連携 北陸の 11 大学・3 高専が、それぞれの強みを持ち寄って教育プログラムを開発・提供。	幅広い対象 小中高生、高専生、大学・大学院生、社会人まで、成長段階に応じた学びを提供。
実践重視 社会課題の発見、アイデア創出、検証、試作、発表、起業準備までを実践的に支援。	挑戦の接続 教育から学生コミュニティ、試作拠点、GAP ファンド等の事業化支援へ接続。

公的な位置付け

- 金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学を主幹機関として運営しています。
- 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の START「大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援」の採択プロジェクトです。
- 内閣府「NEXT グローバル拠点都市」に選定された北陸スタートアップ・エコシステム・コンソーシアム（HOSTEC）と連携します。

教育から地域の未来へ

1 マインド醸成 挑戦する姿勢を育てる	2 課題発見・創造 自ら問いを立てる	3 検証・試作 アイデアを形にする	4 社会実践 地域・企業と試す	5 起業・価値創出 事業や活動へつなぐ
---	--	---------------------------------------	-------------------------------------	---

公式サイト：<https://tesh-entre.jp>

03 企業が支援する意義

寄附は「地域貢献」にとどまらず、人材・組織・ブランド・共創の基盤づくりにつながります。

01

地域の次世代人材を育てる

企業単独では提供しにくい、学校段階を越えた体系的な教育機会を地域全体で支えます。

02

人的資本経営と接続する

教育プログラムを社員研修やリスクリング、越境学習の機会として活用できます。

03

学生・教育機関との接点をつくる

成果発表会やワークショップ等を通じて、学生・教員・地域人材と継続的に交流できます。

04

挑戦を応援する企業ブランドを示す

公式 Web、報告書、SNS、教材等で、未来を担う人材を応援する姿勢を発信できます。

05

共創・イノベーションの土壌を育てる

学生の自由な発想やプロトタイプに触れ、社内の課題意識や新規事業文化を刺激します。

社内方針との接続例

社内方針	TeSH 寄附との接点	社内説明のキーワード
サステナビリティ／CSR	地域教育・次世代育成への継続的支援	地域貢献、教育、SDGs 4（教育）・8（経済成長）・9（産業技術）・17（国際協力）
人的資本・人材開発	社員研修、越境学習、若手社員の参画	自律型人材、リスクリング、学習文化
採用・組織広報	学生との接点、企業の価値観の発信	採用広報、エンゲージメント、認知向上
新規事業・地域共創	企業課題を題材としたワークショップ等	オープンイノベーション、共創、仮説検証

重要：寄附は「成果保証型の取引」ではありません

TeSH への寄附は教育活動への支援であり、売上・採用・事業成果を保証するものではありません。企業名掲載やプログラム参画等は、寄附への謝意と教育共創の機会として、教育上の公正性、学生の安全・個人情報、各機関の規程を優先して実施します。

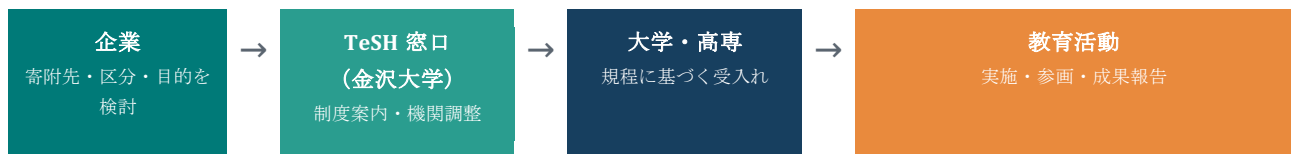
04 寄附金の使途と説明責任

企業の支援を、教育プログラムと学生の挑戦環境へ着実に還元します。

主な使途

教育プログラム・教材の開発／改良 アイデア創出、デザイン思考、マーケティング、ファイナンス等の教材整備。	教員・講師の育成／教材制作 地域で継続的に教育を提供できる担い手の育成。
出前授業・ワークショップ 小中高・高専・大学等への学習機会の提供。	学生コミュニティ・成果発表会 学生同士、企業、教員が学び合う場の運営。
試作環境・学生支援 テックガレージ等の設備維持、材料費、試作・検証活動の支援。	年次報告・成果発信 報告書、成果発表イベント、Web・広報等による活動の可視化。

受入れと実施の基本フロー



説明責任・ガバナンスの考え方

- 寄附は、企業が指定する TeSH 参画大学・高専が、各機関の規程・審査に基づき受け入れます。
- 活動内容と成果は、年次報告書、成果発表会、公式 Web 等を通じて可視化します。
- 企業名・ロゴ・取組内容の公表は、企業の希望と事前確認に基づきます。
- 学生の個人情報を経営者へ提供することはありません。交流・採用関連の情報提供は、教育目的と各機関のルールに沿って行います。
- 寄附により、調達、共同研究、採用、成績評価、知的財産等に関する優遇を付与するものではありません。
- 寄附金の具体的な使途、参画内容、実施時期は、寄附先機関・TeSH 窓口との事前調整により確定します。

寄附先機関によって取扱いが異なります

受入れ手続き、領収証明書、税制上の優遇、名称掲載、実施可能なプログラムは、寄附先の大学・高専によって異なる場合があります。社内決裁前に、TeSH 窓口を通じて寄附先機関の条件を確認してください。

05 協賛（寄附）区分

企業の目的・規模に合わせて、年額 10 万円から段階的に選択できます。

区分・年額	対象	主な謝意・参画機会	想定する企業・目的
エンジェル 1 万円以上	個人	感謝状・報告書贈呈／公式 HP への氏名掲載（希望者）／教育イベント優先案内／公開成果発表イベント案内／アルムナイコミュニティ（Slack）参加	卒業生・地域住民など
エデュケーション 10 万円以上	法人・個人	感謝状・年次報告書贈呈／公式 HP への社名掲載／教育プログラム 1 件の体験・閲覧／教育関係者との交流会／成果発表会招待／アルムナイコミュニティ（Slack）参加	初めて教育支援に参画する企業
ブロンズ 30 万円以上	法人	感謝状・年次報告書贈呈／公式 HP への社名掲載／協賛企業名入り教材（1 件）／小中高向け教育プログラム 1 件利用（CSR・社員研修可）／学生コミュニティ Slack「インターン情報」掲載（年 2 回まで）／成果発表会招待／アルムナイコミュニティ（Slack）参加	教育 CSR・地域貢献を重視
シルバー 50 万円以上	法人	感謝状・年次報告書贈呈／公式 HP への社名掲載／教材掲載／教育プログラム 2 件利用／学生コミュニティ Slack「インターン情報」掲載（年 4 回まで）／教育成果発表会特別招待／企業紹介ページ掲載（取組紹介＋リンク）／スパークガレージ成果発表会参加・学生交流会招待／アルムナイコミュニティ（Slack）参加	人材育成・採用連携を重視
ゴールド 100 万円以上	法人	感謝状・年次報告書贈呈／公式 HP への社名掲載／教材掲載／教育プログラム最大 3 件利用（社内・地域向け）／学生コミュニティ Slack「インターン情報」掲載（制限なし）／企業×学生ワークショップ共催／公式 SNS 特集記事／スパークガレージでの企業賞授与（自社賞・副賞設定可）／金沢大学「To:Fu」デジタルサイネージへの企業情報表示／成果発表会招待／アルムナイコミュニティ（Slack）参加	地域中核企業・金融・教育関連
プラチナ 300 万円以上	法人	ゴールドまでの全特典／大学・高専のプログラムを組み合わせた社員研修（年 1 回・30 名程度・3 時間以内）／オーダーメイド講座／自社課題型ミニビジネスコンテスト（年 1 回、企業担当者が審査員として参画）／企業 PR 動画・記事の教育プログラム内発信／アルムナイコミュニティ（Slack）参加	北陸を代表する企業・大企業

※ 上表は原案に記載された企業特典を全て掲載しています。ゴールド以上の「To:Fu」デジタルサイネージ（金沢大学への寄附に限定した特典）への企業情報表示を含みます。特典・参画内容は、寄附先機関、実施年度、教育プログラムの開催状況等により実施条件を調整する場合があります。具体的な内容は申込み前に確認します。

金沢大学を寄附先とする場合の参画例

- スパークガレージ：3D プリンタ、レーザーカッター、映像制作機器等を備え、学生がプロトタイプ開発に取り組む拠点。シルバー以上は成果発表会・学生交流、ゴールド以上は企業賞、プラチナは自社課題型企画を検討できます。
- To:Fu：金沢大学自然科学本館アカデミックホール内の学生交流スペース。ゴールド以上では、企業情報をデジタルサイネージで表示できます。企業ニーズの高い特典として、表示内容・期間・素材仕様等を事前に調整します。なお、本特典は金沢大学へ寄附いただいた際に限定した特典になります。

「寄附額の対価」ではなく「教育共創への参画機会」

各区分の内容は、寄附金額と同等の役務を提供することを意味するものではありません。教育への寄附に対する謝意と、企業が教育活動へ参画する機会を示すものです。

06 区分の選び方と成果指標

「何を支援したいか」「どの程度参画したいか」から、適切な区分を選びます。

目的別の推奨区分

主な目的	推奨区分	主な社内部門	判断の目安
まず地域教育への寄附を始めた い	エデュケーション	総務／CSR	名称掲載・報告書を中心に、 低負担で参画
教育 CSR と社員参加を両立した い	ブロンズ	CSR／人事	教育プログラム 1 件を活用
学生・教員との継続的な接点を 持ちたい	シルバー	人事／採用／地域連携	複数プログラム、成果発表・ 学生交流
企業課題やブランドを教育活動 と接続したい	ゴールド	経営企画／新規事業／広報	ワークショップ、企業賞、公 式 SNS 特集、デジタルサイネ ージ
社員研修・課題解決型企画を実 施したい	プラチナ	経営企画／人事／新規事業	社員研修、ミニビジコンを個 別設計

社内で設定できる成果指標（例）

評価領域	KPI 例	確認方法
教育への貢献	支援プログラム数、参加学生数、出前授業数	年次報告・活動報告
社員の学び	研修参加者数、満足度、学びの社内共有件数	参加者アンケート
学生・大学との接点	成果発表会・交流会参加数、対話した学生チーム数	実施記録
地域・ブランド	公式 Web・SNS・デジタルサイネージ掲載件数、社 内外広報件数	掲載記録・広報実績
共創・新規事業	ワークショップ実施数、社内課題の仮説数	活動レポート
継続性	翌年度の継続判断、社員参画部門数	年度末レビュー

成果評価の考え方

寄附の効果は、短期的な売上や採用人数だけで評価せず、教育機会の創出、社員の学び、地域との関係、挑戦を応援する企業文化など、中長期の非財務価値も含めて評価することを推奨します。

07 お申込みから実施まで

TeSH 窓口（金沢大学）が、寄附先機関の選定と参画内容の調整を支援します。

01

社内で目的・予算を整理

寄附の目的、希望区分、寄附先候補、主管部門、希望する参画内容を整理します。

02

TeSH 公式サイトから相談（金沢大学担当者への直接連絡でも OK）

問い合わせフォームで、企業名、担当者、寄附希望額、関心のある活動等を連絡します。

03

寄附先機関・内容を調整

TeSH 窓口と寄附先大学・高専が、受入れ可否、使途、実施内容、時期を確認します。

04

社内決裁・寄附申込み

本資料と寄附先機関の案内を用いて社内決裁を行い、所定の寄附申込手続きを行います。

05

入金・領収証明書受領

寄附先機関の案内に従って入金し、領収証明書を受領します。

06

参画・成果確認

教育プログラム、成果発表会、社員研修等へ参画し、年度末に成果を確認します。

相談時にお知らせいただきたい情報

企業情報 会社名、所在地、業種、担当部署・担当者	寄附希望 希望金額、希望年度、寄附先機関の希望
支援目的 CSR、人材育成、採用広報、共創等	希望内容 プログラム利用、成果発表、デジタルサイネージ、社員研修等
公表意向 企業名・ロゴ・取組内容の掲載可否	社内日程 決裁予定日、入金希望時期、実施希望時期

税務・会計処理について

金沢大学への法人寄附の場合

金沢大学が寄附金として正式に受け入れ、国立大学法人法に定める業務に充てる法人寄附は、法人税法第 37 条第 3 項第 2 号および指定寄附金に関する財務大臣告示に基づき、原則として支出額の全額を損金算入できると案内されています。実際の処理は、金沢大学が発行する寄附金領収証明書と自社の会計方針に基づき、経理部門・税理士等へ確認してください。

注意：他の大学・高専を寄附先とする場合は、法人区分や制度により取扱いが異なり得るため、当該機関の案内をご確認ください。本資料は税務・法務上の助言を行うものではありません。

お申込み・ご相談：<https://tesh-entre.jp>

08 社内稟議・決裁記載例

以下をコピーし、[] 内を自社の内容に置き換えてご利用ください。

件名

[年度] TeSH アン트レプレナーシップ教育プログラムへの企業協賛（寄附）について

決裁区分：[取締役会／経営会議／部門長決裁 等] 起案部門：[部門名] 起案者：[氏名]

1. 決裁事項	TeSH アン트レプレナーシップ教育プログラムに対し、[寄附先機関名]を通じて、[協賛区分]として金[金額]円を寄附する。
2. 目的	北陸地域の次世代人材に対する実践的なアントレプレナーシップ教育と挑戦環境の充実に支援し、当社の[CSR／人的資本／地域共創／採用広報／新規事業]方針を推進する。
3. 背景・必要性	人口減少・産業構造変化が進む中、地域の若者が課題を発見し、新しい価値を生み出す力を育てることは、地域社会と当社の持続的成長に共通する課題である。TeSHは北陸11大学・3高専等が連携し、小中高生から大学院生・社会人までを対象に体系的な教育を提供している。
4. 寄附金の使途	教育プログラム・教材の開発、教員・講師育成、出前授業、学生コミュニティ・成果発表、試作設備・学生支援、成果報告等に活用される。
5. 当社の参画内容	[公式HP・教材・企業紹介ページへの掲載／インターン情報掲載／教育プログラム利用／成果発表会参加／学生交流／企業×学生ワークショップ／公式SNS特集／デジタルサイネージ表示／社員研修／企業賞／自社課題型ミニビジネスコンテスト／PR動画・記事等]。具体的な実施内容はTeSH窓口および寄附先機関と調整する。
6. 期待する効果	①地域教育への貢献、②社員の学びとエンゲージメント向上、③学生・大学との接点形成、④挑戦を応援する企業ブランドの発信、⑤地域共創・新規事業文化の醸成。
7. 支出・会計処理	予算科目：[寄附金／CSR関連費 等]。寄附先機関が発行する領収証明書に基づき処理する。税務上の取扱いには経理部門が確認する。
8. 成果確認	年度末に[年次報告書／成果発表会／活動記録]を確認し、[社員参加数、学生接点数、広報件数等]を基に継続可否を評価する。
9. リスク・留意事項	寄附は成果を保証する取引ではない。学生の個人情報、教育の公正性、各機関の規程を遵守し、企業名・ロゴの掲載は事前確認の上で行う。
10. 実施時期	申込予定：[年月]／入金予定：[年月]／参画期間：[年月～年月]。

添付資料例：本ガイド、TeSH 公式 Web の協賛区分ページ、寄附先機関の寄附受入案内・税制案内、見積ではなく寄附申込書（または受入条件確認資料）。

09 よくあるご質問

社内の経理・法務・人事・広報部門から想定される質問を整理しています。

Q1. 寄附先は TeSH 事務局（金沢大学）ですか？

TeSH 全体として制度案内・調整を行います。寄附は企業が指定する参画大学・高専が各機関の規程に基づき個別に受け入れます。

Q2. どの区分を選べばよいですか？

名称掲載と報告を中心に始める場合はエデュケーション、社員・学生の交流や複数プログラムを重視する場合はシルバー以上、社員研修・自社課題型企画まで行う場合はプラチナが目安です。

Q3. 寄附金の使途を指定できますか？

希望は相談できますが、受入れの可否、使途指定の範囲、管理方法は寄附先機関の規程に従います。

Q4. 特典は必ず同じ内容で実施されますか？

教育プログラムの開催状況、寄附先機関、時期、対象者等により調整する場合があります。申込み前に内容を確認します。

Q5. 学生の採用に直接つながりますか？

採用成果を保証するものではありません。学生との交流は教育目的で行い、求人・インターン情報は各機関のルールと学生の意思を尊重して取り扱います。

Q6. 企業名やロゴを掲載しないことはできますか？

可能です。氏名・企業名・ロゴ・寄附額・取組内容の公表範囲は、寄附先機関と事前に確認します。

Q7. 寄附後に返金できますか？

原則として、受入れ後の返金はできません。受入条件は申込み前に寄附先機関へ確認してください。

Q8. 法人税の取扱いはどうなりますか？

金沢大学が寄附金として正式に受け入れ、国立大学法人法に定める業務に充てる法人寄附は、指定寄附金として原則、支出額の全額を損金算入できると公式に案内されています。他機関を寄附先とする場合は、当該機関の証明・案内と自社の専門家の確認に基づき処理してください。

Q9. 複数年の支援は可能ですか？

継続的な寄附についても相談できます。毎年度、実施内容と成果を確認し、次年度の方針を調整します。

Q10. 共同研究や受託研究と同時に実施できますか？

可能ですが、寄附、共同研究、受託研究等は目的・契約・会計を明確に分け、各機関の手続きに従う必要があります。

Q11. デジタルサイネージには、どのような企業情報を掲載できますか？

ゴールド以上を対象に、金沢大学自然科学本館アカデミックホール内「To:Fu」のデジタルサイネージへ企業情報を表示できます。表示内容、掲載期間、素材仕様、審査・確認方法等は、金沢大学と事前に調整します。

個別条件は申込み前に確認します

本資料は制度の標準的な案内です。寄附先、金額、使途、参画内容、掲載方法、実施時期、税務・会計処理等については、TeSH 窓口（金沢大学）と寄附先機関へご相談ください。

10 お問い合わせ・参考情報

まずは公式サイトフォームから、検討段階でもお気軽にご相談ください。

TeSH アン Entrepreneurship 教育プログラム

企業協賛（寄附）のお申込み・お問い合わせ

<https://tesh-entre.jp>

フォームに「寄附希望額」「寄附先の希望」「関心のあるプログラム」「社内決裁予定時期」等をご記載ください。



公式情報・出典

- TeSH アン Entrepreneurship 教育プログラム公式サイト：<https://tesh-entre.jp>
- JST START「大学・エコシステム推進型」事業概要：<https://www.jst.go.jp/start/su-ecosys/index.html>
- JST 2025 年度採択プロジェクト（Tech Startup HOKURIKU）：<https://www.jst.go.jp/start/su-ecosys/project2025.html>
- 内閣府 スタートアップ・エコシステム拠点都市：
<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/ecosystem/2ndconcept.html>
- 金沢大学基金：寄附・支援事業／税制上の優遇措置：<https://kikin.adm.kanazawa-u.ac.jp/kikin/>
- 国税庁：寄附金を支出したとき：https://www.nta.go.jp/publication/pamph/koho/kurashi/html/04_3.htm

ご利用上の注意

- 本資料は、企業の社内検討を支援するための標準資料です。寄附先機関の正式な募集要項、規程、申込書、領収証明書等を優先してください。
- 特典・参画内容は、教育上の必要性、学生の安全・個人情報、各機関の規程、年度の実施状況により調整・変更することがあります。
- 税務・法務・会計上の判断は、寄附先機関の案内および自社の税理士・会計士・弁護士等の専門家へご確認ください。
- 本資料の内容は 2026 年 7 月 26 日時点の情報に基づきます。最新版は TeSH 公式サイトをご確認ください。

未来を創る教育を、北陸の産学官で支える

企業の皆様のご支援が、若者が社会課題に向き合い、試し、学び、挑戦を続けるための環境になります。TeSH は、企業の理念・人材戦略・地域との関係に合った参画方法を一緒に設計します。